

令和4年度長野県高等学校総合体育大会 第51回登山大会 事前研究資料

四阿山（あずまやさん 2,333m）

須坂市、小県都真田町と群馬県嬭恋村の県境にあって、古来、神の山として信仰されてきた山である。四阿火山の主峰であり、頂上からの展望はすばらしい。善光寺平の西の高台に立つと、東側に志賀高原から菅平高原にかけて連なる上信国境の山々が眺められる。これらの山々はほとんど火山とあってよく、特にその南端の長く緩やかなカーブは、かつての雄大な火山を想像させるに違いない。手前に長くスロープをひいているのは根子岳で、南側に重なるように山頂を見せているのが四阿山である。四阿山は上信国境では浅間山、黒斑山に次いで標高の高い山である。

地図を広げて、四阿山から稜線を北方にたどる浦倉山と奇妙山、西方に飛んで根子岳の山々を結んでみると、そこに大火口をもった雄大な火山が現れる。そして四阿山の山頂に立って西側を見渡すと、根子岳の東北面の壁が荒々しい様相を見せ、太古まだ活動していたころの姿を思わせる。

四阿山は名のごとく、東屋（あずまや）の屋根に似ているところからつけられたといわれ、上田地方にはなじみの深い山である。四阿山から流れ出る川を神川（かんがわ）といい、たびたび干害に見舞われたこの地方の人々には恵みの水をもたらす川であり、源流域の四阿山は神の山としてあがめられていた。すそ野の樹林の伐採が領主真田氏によって長く禁止されていたのも、水の供給源の確保のためであった。現在では上流に菅平ダムが造られ、多目的ダムとしてその機能を果たしているが、水利上この山が重要なのは今も昔も変わらない。

信仰の山としてのあかしは、山頂の信州祠と上州祠の二つの祠、山頂への参拝口として鳥居が立っていたことに由来する鳥居峠、さらに山頂に至る道のあちこちにある祠など、今もそこそこに残っている。

【地質】四阿火山は、火山カルデラで、根子岳、四阿山、浦倉山、米子奇妙山と頂上をつないだ線が外輪山で、この最高峰が四阿山である。カルデラ内部は湖を形成していたと考えられる。カルデラ以前の四阿火山は、現在より高く富士山と同じ形の火山だったと思われる。カルデラの内側には、南東に偏して池の平中央火口丘がある。また、四阿火山内には多くの爆発跡がある。根子岳と四阿山を分けている大間隙、カルデラ内壁の不動滝、権現滝の急崖などがそれである。東屋のような山容は、何回かの爆発があつて山頂部分が急峻になったためであり、火山は大体十五種類の溶岩から成り、いずれも輝石安山岩である。

【動植物】南西斜面は広大な牧場となっており、乾燥高原である。シバ、アズマギク、オキナグサ、マツムシソウが見られ、その間に点々とアカマツ、シラカンバ、シナノキの大木がある。中腹以上はシナノザサのやぶとなっており、頂上付近にはハイマツ、ガンコウラン、クロマメノキ等が生育する。菅平は古くからツキヌキソウ、グンバイヅル等の珍しい植物が分布することが知られていた。動物ではヤチネズミ、トガリネズミ、ヒメヒミズ

等のネズミ・モグラ類、ミヤマホオジロ、チュウサギ、オオヨシキリ、アカハラ、ノビタキ等の鳥類、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル等のカエル類の生息が報告されている。大洞川湿原にはハンノキとヤチダモを主とする湿生林が発達している。その林中にはクロビイタヤ、シバタカエデ、オニヒョウタンボク、ハナヒョウタンボク、カラフトイバラ等の珍しい木本類が混じっている。

根子岳（ねこだけ 2,127m）

四阿山の西、須坂市と小県郡真田町の境にあつて、四阿山とともに菅平高原を象徴する山。スキーツアーの山として知られている。根子岳は四阿山とともに菅平高原になくてもならない山である。菅平高原のもつ空との一体感、広大さと解放感は、この根子岳に負うところが大きい。広大なすそ野のスロープが平地からそのまま空へのびていって、その極みが根子岳である。高原の平地部から登山道をたどると、カラマツの植林とシバやササの草原地帯が混在し、標高 1,700 メートル付近からダケカンバの高木帯となり、それを抜けると高山性の草原となって山頂に至る。登りながら高原を見下ろすと、牧場や野菜畑、グラウンドなどがすそ野に広がっているのがよく見える。また目を上げれば、屏風のような北アルプスの雄大な眺めが一望である。頂上の東側と北側は急崖で、菅平側のおだやかな容姿とはうらはらに荒々しい。隣の四阿山とともに四阿火山の外輪山であることによる。

菅平高原には先史時代の遺物の出土が多く高冷地でありながら人跡が濃かったことをうかがわせる。現在の菅平の基となる定住と開拓は、今から百四十年ほど前であるから、古代からこの間、菅平は生活の場としては空白の時代をもっていることになる。しかし、菅平は交通の要衝として、歴史の上で重要な役割を果たしてきた。北上州と信州を結ぶ二つの街道、上州街道と大笹街道がここを通過していたのである。ことに大笹街道は根子岳のすそ野を横切る道で、標高が高く、往還は安易ではなかったが、明治に入り鉄道の発達を見るまで、北信地方の産物を送り出す要路として大いに栄えたのである。菅平高原はいま高原野菜の産地として、そしてスキー場としてその名が高いが、数多いテニスコート、ラグビーグラウンド、さらにゴルフ場の開設で、スポーツ高原として若い人たちの人気を高めている。

【地質】根子岳、四阿山、浦倉山、米子奇妙山の頂上をつなぐ線がほぼ円形になって、これらがカルデラの外輪山にあたる。カルデラの内側の根子岳北方はきわめて急崖で、不動滝などをつくる崖は爆発あとに相当する。洪積世にはカルデラ内は湖になっていた。根子岳や四阿山にはこのほか多くの爆列火口が認められ、そのおもなものは大明神沢谷頭部、滝ノ入沢谷頭部に見られる。これらの火山群はほとんどが輝石安山岩の溶岩からできている。

出典 信州山岳百科Ⅲ（信濃毎日新聞社 昭和 58 年）

注意 市町村名は出版当時のものであり、現在は異なるものもある。